

Pierre-Alain Clavien, Michael G. Sarr, Yuman Fong,
Masaru Miyazaki (eds)

Atlas of Upper Gastrointestinal and Hepato-Pancreato-Biliary Surgery [Second Edition]

宮崎 勝

千葉大学大学院臓器制御外科学

PIERRE-ALAIN CLAVIEN
MICHAEL G. SARR
YUMAN FONG
MASARU MIYAZAKI
EDITORS

Atlas of Upper Gastrointestinal and Hepato- Pancreato- Biliary Surgery

Second Edition

Springer

この Atlas 手術書は 2007 年に第一版が出版され、これまでの手術書とは違って極めてわかりやすく、かつ実践的な内容で高難度手術手技を解説していることより、多くの外科医から大変な好評を博した本である。その第二版がこのほど大幅改訂され、術後合併症 Clavien-Dindo 分類で有名なスイスの Pierre-Alain Clavien、メイヨークリニック外科教授の Michael G. Sarr、ニューヨーク・スローンケタリング癌センター外科教授の Yuman Fong の三人の世界的なリーダーに加え、アジアから千葉大学教授の宮崎勝が新たに編集者として加えられ、さらに充実した本として出版された。

第二版では腹腔鏡アプローチおよびロボットの手術手技などについても多くの章で加えられ、肝臓外科領域では新たに ALPPS 手術や肝腫瘍に対しての electroporation 法なども掲載されている。また、1990 年代に入り、さまざまな手術手技が登場した。たとえば腹腔鏡下の消化管手術および肝切除、胆道癌に対する肝左三区域切除や胆膵癌に対する血管合併切除術なども以前に比べて洗練され、さらに肥満手術においての gastric bypass 術なども新たに開発されてきている。これら新規臨床導入されてきている術式について、外科医は常に正確な知識を得る必要がある。また本書の特徴として、“Tricks of the Senior Surgeon” といって通常の手術手技の解説書には記載のない秘策的・実践的な注意点がエキスパート

らによって簡潔かつ要領よく記載されている。本書にある外科手術をすでに自身で行っている中堅外科医にとっても、技術のさらなる質向上に有用となる手技上の tricks がたくさん記載されており、これを自身の手技と比較してみるだけでも大変参考になるはずである。

本書は、①外科手術の基本原則、②食道・胃・十二指腸、③肝臓、④胆道、⑤門脈圧亢進症、⑥膵臓、⑦脾臓の 7 章に分かれている。第一章では患者の体位、開創器の使用法、ステープラー、エネルギーデバイスの原則および使用法、ドレナージなどを実践的に解説し、ロボット手術の原則についても解説している。第二章では left thoracoabdominal approach, transhiatal approach, abdominotheracic approach といった各種アプローチ別の食道切除方法、ならびに鏡視下切除、縮小手術などについても詳しく記載され、適応についてもわかりやすく述べられている。また GERD や肥満手術、さらにはロボット手術の RAMIE についても詳しく解説されている。第三章では血管浸潤例に対しての各種肝血行遮断法、肝切除の際のハンギング方法といった細かな手技上のテクニックについても詳しく記載され、実臨床上極めて有用で、初心者でもそのコツが読み取れるであろう。腹腔鏡下肝切除についても、その authority であるフランスの Daniel Cherqui 教授が要点を明瞭に書いている。また cryosurgery, ablation surgery についても最新の手技が記載され、さ

らには ALPPS・二期的肝切除方法のコツも要領よく書き加えられている。肝移植については、多臓器移植手技を含め生体・脳死肝移植方法、さらには韓国の Sung-Gyu Lee 教授らによって初めて開始された Double Transplantation 方法も、具体的な手技が詳述されている。第四章では胆嚢癌の進行度別に選択すべき術式がわかりやすく述べてあり、胆管癌に対する右側および左側肝切除のポイントが各エキスパートらによって述べられている。第五章では門脈圧亢進症のシャント手術について、小口径グラフトを用いての方法と標準的なシャント手術とが別々に記載されており大変参考になる。第六章では急性・慢性膵炎に対する術式および膵移植手技も加えられ、ロボット手術での膵体尾部切除も新たに加えられている。最後の第七章では腹腔鏡下の脾臓摘出が開腹術との比較で述べられており、外傷による脾損傷に対しての脾温存術も記載され、大きな脾嚢胞に対しての腹腔鏡下開窓術も触れられている。

このように本書は実際に手術を行ううえでの手技の要点が極めて簡潔かつ効率的に解説されており、忙しくて十分に時間の取れない多くの外科医にとって、極めて役立つ実践的な手術書になるであろう。レベルの高い手術を目指す外科チームのもとで長く読まれてほしい手術書として推奨したい。

●Hardcover 299.00 €/1067 pages

[ISBN978-3-662-46545-5]

Springer, 2015